

【参考資料】城山病院「運転脳ドック」

検査内容と医学的背景について

城山病院「運転脳ドック」

高齢者の“安全に運転するための脳機能”を多角的に評価

～将来はリハビリを通じ「生涯運転期間」の延伸を目指す～

医療法人春秋会 城山病院（大阪府羽曳野市）は、中高年のドライバーや職業ドライバーを対象に、安全運転に必要な脳機能を多角的に評価する「運転脳ドック」を実施しています。

■ 運転に必要なのは「記憶力」だけではありません

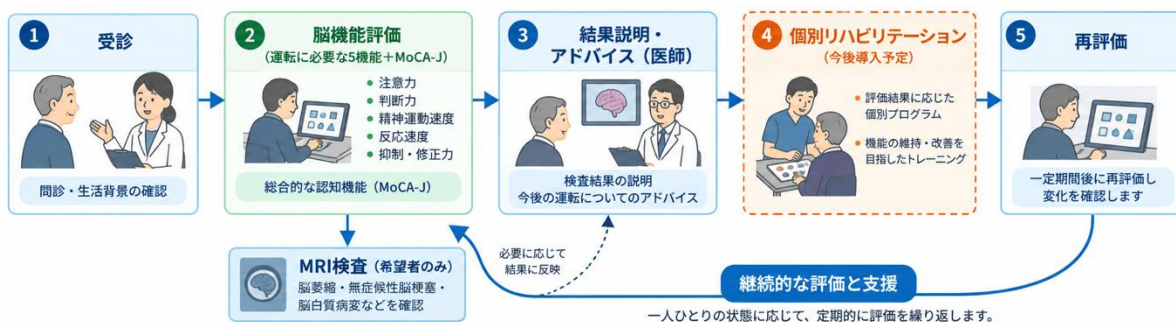
運転では、記憶力だけでなく、周囲に注意を配り、状況を判断し、素早く反応し、誤った操作に気づいて修正する一連の情報処理が重要です。

本ドックでは、**注意力、判断力、精神運動速度、反応速度、抑制・修正力**の5つの機能を、**運転能力や事故リスクとの関連が報告されている空間的注意力検査（UFOV）を含む複数の神経心理学的検査**を組み合わせせて評価します。**運転に関連する脳機能の総合評価に加え、どの機能に注意が必要かをプロフィールとして示す、更により安全に運転を続けるためのアドバイスを行うことが特徴です。**

さらに、総合的な認知機能の評価として定評のある**MoCA-J**を用い、年齢別の基準値と比較します。これにより、総合的な認知機能の状態に加え、**その変化が年齢相応の範囲なのか、同年代と比べて異常な低下がみられないかも評価**します。異常が疑われる場合には、追加で専門医診察やMRIなど、必要な精密評価につなげます。

運転脳ドック 評価・支援の流れ

～定期的な評価と必要な支援を繰り返し、安全に運転できる期間（生涯運転期間）の延伸を目指します～



■ 「運転をやめるか」ではなく「どうすれば安全に続けられるか」

「年齢を理由に運転をやめるべきか」「家族として運転を続けてもらってよいのか」といった相談は少なくありません。

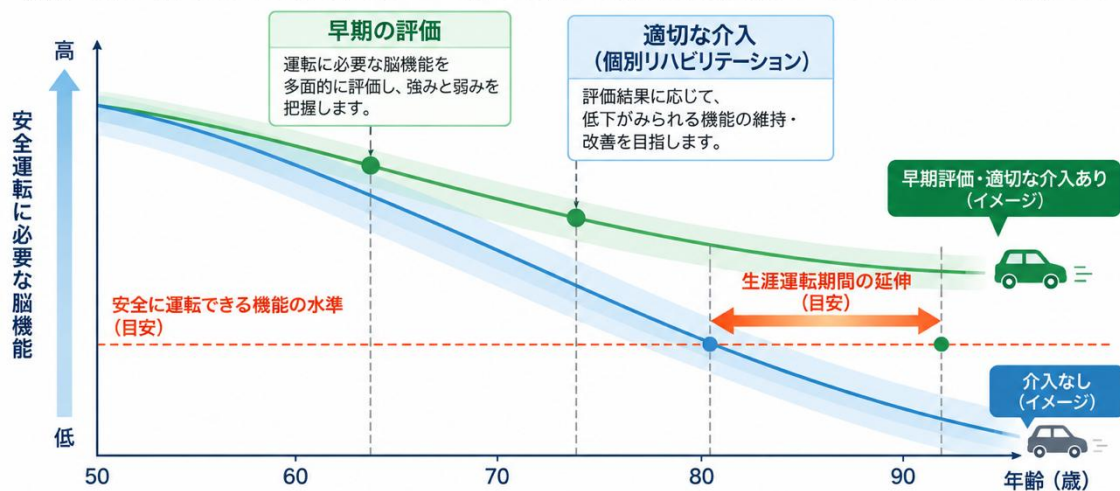
本ドックは、運転に関連する脳機能を医学的な観点から評価し、ご本人やご家族が今後の運転について考えるための客観的な判断材料を提供することを目的としています。

希望される方にはMRI検査も行い、脳萎縮、無症候性脳梗塞、脳白質病変などの有無を確認します。検査結果だけで運転の可否を一律に決めるものではなく、年齢相応の変化と運転に必要な能力を分けて評価し、低下がみられる脳機能への対処方法についてもアドバイスします。

■ 将来は個別リハビリで「生涯運転期間」の延伸を目指す

早期の評価と適切な介入で「生涯運転期間」の延伸を目指す

脳機能の変化を早期に把握し、必要な対策を行うことで、安全に運転できる期間（生涯運転期間）をできるだけ長くすることを目指します。



一人ひとりの評価と適切な支援を通じて、安全に運転できる期間、すなわち「生涯運転期間」の延伸を目指します。

※本図は将来構想を示す概念図であり、介入効果を示す臨床データではありません

今後は、評価によって明らかになった注意力、判断力、情報処理速度、反応速度、抑制・修正力などの弱点に応じて、機能の維持・改善を目指す個別リハビリテーションプログラムの提供を予定しています。

海外では、処理速度や推論能力に対する認知トレーニングが、一部の高齢ドライバーの運転継続に寄与する可能性が報告されています（Ross et al., 2016）。当院でも、評価結果に応じた個別リハビリテーションの開発を進めています。

目指しているのは、単に「いつ運転をやめるか」を判断することではありません。脳機能の変化を早期に把握し、必要な介入と再評価を行うことで、安全に運転できる期間、すなわち「生涯運転期間」をできるだけ長くすることです。

【参考文献】

Ross LA,ら The impact of three cognitive training programs on driving cessation across 10 years: A randomized controlled trial. The Gerontologist. 2016;57(5):838–846.

【本ドックの詳細（医療広告ガイドライン限定解除要件に基づく記載）】

本ドックは自由診療です。検査結果は将来の交通事故を予測したり、安全運転を保証したりするものではなく、医学的な観点から今後の運転を考えるための判断材料を提供します。

以上